

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 4年 3月 28日

公表: 令和 4年 3月 29日

事業所名 幼児グループにじこ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9		一軒家で室内スペースに限りがあるが、テラスや新しくできた敷地内広場の利用を工夫し、十分に身体を動かせる場所を確保している。	今後も分かりやすいエリア設定等を行うと共に、新たにできた広場スペースを整備し有効に利用していきたい。
	2	職員の配置数は適切である	9		常に十分な配置がされ、事務作業の時間も確保されている。また、次年度に向け在勤職員が資格を取得し、有資格者の配置整備をすることができた。	資格取得も含め、引き続き体制を整えていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9		絵カードや写真カードを必要に応じ分かりやすく使用している。賃貸の為、子ども向けバリアフリーになっていない場所もあるが、補助便座、足台、オムツ交換スペース等を設置し、他のスペースは分かりやすく構造化している。室内では運動とままごとスペースに分け個々に過ごしやすいような設定がされている。	今後も絵カード等の内容、表示の仕方の見直し等、誰にとっても分かりやすい環境整備を行っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9		梅雨前の害虫駆除消毒の他、毎日の消毒、掃除を徹底し、子どもの唾液が付着した際には、都度アルコールで拭き取っている。角ばっている場所には保護材を付け怪我の防止がされている。子どもが過ごすスペースは確保されているが、収納スペースが狭く、整理できていない場所もあるが、外に倉庫を設置することができた。	今後も施設内外の整理整頓、清掃、消毒を心がけ、環境を整えていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9		日々の申し送りと振り返り、月1回のミーティングで共有している。普段から職員の見解を取り入れられるように設定している。常に全員が参加するのは難しいが、常勤に限らず多くの人が参加できている。	日々の振り返りだけでなく、事業所全体の目標に向けた取り組みについての情報共有をしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		年1回の評価の内容の他、普段から保護者との情報交換を密にしている。評価表を配布、集計し結果に基づいて改善を行っている。	把握した意向について迅速に検討、改善につなげていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		年に1度HPIに公開している。非常勤の為、保護者の評価内容は分からないが改善に繋がっていると思う。	評価表については、常勤職員が回収、評価を行いHPで公開しているため、公開するだけでなく、その内容を全職員で共有する機会を設ける。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5		第三者評価は今年度は行っていないが、直近の評価課題にあがった、業務継続計画の一部としての感染対策として、月1回のコロナ対策委員会が有効に機能した。	次年度は災害対策としての防災委員会の強化に取り組みしたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	定期的な研修の機会(年3回以上)が確保されている。コロナ禍ではオンラインによる研修が充実し、参加もしやすくなった。PTIによるミニ勉強会や読み合わせの勉強会の機会を設けたり、各事業所毎に勉強会や研修を行っている。複数職員が児童発達支援管理責任者更新研修を受けることができ、改めて当該事業内容の理解を深めることができた。内部研修を複数回必ず受講出来るようにしているが、個人の資質や興味に応じた外部研修の機会は特に非常勤職員においては無い。	内部研修については、どの職員にも必要な内容を設定しているが、職員のキャリア等に応じ求める内容の幅も広がってきているため、個別のキャリアや興味に応じた個別の研修についても積極的に受講の機会を設けたい。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9		担当職員が面談をし、作成されている。他の職員にも確認の機会があり、面談内容や日々の子どもの記録を元に作成された計画を皆で確認している。時間を十分取って面談を行い、面談以外でも窓口を設けニーズの把握に努めている。	今後も他機関での情報を共有しながら、丁寧な面談を心がけていく。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	利用初回においては利用しているが、途中のアセスメントにおいては使用していない。ヒヤリハットの内容(子どもの行動)については、行動分析のツールは使用せず、ミーティング等で口頭で行っている。	個別の発達検査の結果を普段の支援に生かしていく。また、行動分析の仕方については今後検討していきたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8		ガイドラインに沿って支援内容を設定している。	ガイドラインの掲示を行い内容の周知を行っていく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9		支援前に必ずリーダーから申し送りがある。振り返り、申し送りの際に目標を確認している。毎日確認する連絡表に目標を入れてあり、日々確認ができるようになっている。	引き続き情報を共有し、丁寧に行っていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9		ミーティングの中でスタッフ全員で立案している。	引き続き意見交換の機会を設けていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		前年度と重ならないように多くの職員から案を出し合っている。固定化しているプログラムの中でバリエーションを増やし工夫している。毎日の読み聞かせ担当者が其々の視点での絵本選びをし、子どもの興味を引き出している。	引き続き意見交換の機会を設けていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6		個別の課題と集団でのコミュニケーション等を組み合わせ作成している。	専門家の意見や他機関の計画内容も参考にしながら、内容の充実を図りたい。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9		前日、当日の朝打ち合わせで十分確認がされている。振り返りやミーティング等で毎日行っている。	引き続き、情報を共有し、確認をしていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9		毎日の振り返りの中で気付いた点や気になった点を話し合い、共有し一人で抱え込まないようにしている。毎日利用者毎に確認をしている。ヒヤリハットを集計している。	引き続き、全職員の意見等が反映できるような機会を設ける。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9		個別記録を記入し、支援計画に反映させている。	分かりやすくポイントを抑えた記述のスキルアップを図る。
20	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		日々の振り返りと半年に1度の面談前に子どもの様子の確認で見直しを行っている。子どもの成長に沿った計画がなされている。	引き続き必要に応じ見直しをしていく。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		コロナ禍により会議の機会はないが、相談支援事業所の訪問や電話によるやり取りをしている。児発管が参画している。オンラインでの会議が日常化できてきて、参加度が上がっている。	必要に応じ積極的に参画していく、また、そのことを保護者に周知していく。また、職員間で適宜情報を共有していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7		必要に応じ電話等で連携を取り合っているが、コロナ禍で機会は少ない。今年度状況を見ながら見学を受け入れ、関わりを作ることが出来た。	コロナ禍で直接訪問の機会があまり設定できていないが、電話によりできるだけ直接やりとりするよう心掛けていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			医療的ケアについては在籍なし。重症心身障害児については、保護者を通じて情報の共有をしている。	関係機関と直接情報を共有する機会を設けたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			医療的ケアについては在籍なし。重症心身障害児については、保護者を通じて情報の共有をしている。	保護者を通じ、関係医療機関との情報を密にとれるようにしたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	4	見学や引き継ぎには行っていない。必要に応じて行っているが、機会は少ない。保護者を通して行っているが、ツールでの情報共有はしていない。	コロナ禍により直接訪問は難しいが、保護者を通じ個別支援計画の内容を伝える等の発信を行ってほしい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		支援学校については担当職員が就学支援シートにてこちらからの情報を伝えて共有できている。他の学校は今のところない。	保護者OBを招いて就学勉強会等を行い学校の情報を得ていく。引き続き支援シートを丁寧に作成していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	相談支援事業所とは電話や書面を通して情報を共有している。外部のPTが支援に入り助言を受けている。コロナ禍のため、区からの技術援助が受けられなかったが、ふらみんぼーとの見学を受け入れることができた。	コロナの状況を見ながら機会を設けていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		8	コロナの影響で外部との交流は難しく、機会が無かった。直接的な交流が必要なのか要検討。保護者のニーズに寄り添いたい。	必要に応じ検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8		自立支援協議会委員として参画している。エリア部会へは月1回参加している。地域の子育てメッセの委員会に参加している。	引き続き積極的に参加し、現場からの声を届けていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	9		送迎の際など、ちょっとした時間でのやり取りを大切に、普段の様子を伝え合うようにしている。利用毎にノート、口頭、個別記録等で情報交換を行っている。メールや電話も随時受け入れ、互いに伝え合っている。	さらに発達支援と保護者支援のスキルアップを図っていく。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	2	コロナ禍で回数は減っているが、就学勉強会が行えた。親子による音楽療法を行っている。現在集団での開催は難しいが個々に対応している。	職員自身が保護者支援のスキルを身につけるよう、また、地域の情報や制度について精通するよう研鑽を積んでいく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		契約時に丁寧に伝えている。2時間ほどかけて説明し、質問等にも応じている。	今後も丁寧にやっていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8		半年に1度の面談で同意を得ている。	今後も丁寧にやっていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9		保護者の悩みを受けた際は、振り返りなどの時間に全体に周知し、必要な助言や支援を全体で考え対応している。送迎時や面談等で相談に応じている。経験豊富な職員が相談を保護者から受け止め、適切に対応している。	今後も丁寧にやっていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9		保護者交流のバザーや有志による草むしり、庭の整備などが行われている。今年度は保護者会を行えた。裏庭を整備し交流の場を設けたい。活用については保護者にも周知したい。コロナの状況を見ながら柔軟に対応したい。	保護者の意見を取り入れながら、適宜開催していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9		随時受け付け、迅速かつ丁寧にアドバイスを行う等の対応をしている。	今後もできる限り対応していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		毎月のおたより、ホームページ、年4回の季刊誌により発信している。	今後も適宜行っていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8		契約時の同意書に基づき、取り扱いには十分注意している。職員1人1人の意識が大切だと感じる。	今後も徹底していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	9		口頭では伝わりにくい内容については、改めてノートやおたよりで伝えている。	職員の支援のスキルアップを図っていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	5	コロナのため、今は難しい。ミニバザーで地域交流の機会があった。外掲掲示板にこの概要や季節の飾りを入れて近隣のの方々が見られるようにしている。ホームページで見ることができる。	適宜検討していく。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9		2ヶ月に1度の避難訓練や嘔吐処理研修を行った。マニュアルを策定している。訓練や研修を行っている。避難訓練だよりを年2回保護者に配布し、緊急時のにじのこでの対応や対策を周知している。月1回のコロナ対策委員会を開催し、ガイドラインの見直しやPCR検査キットの配布、緊急ラインでの情報共有を行い、迅速に対応することができている。	適宜マニュアルの点検見直しをしている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9		地震、火災を想定した避難訓練を定期的に行っている。冬に多くなる感染症対応研修も必ず行われている。訓練後は改善や対策等を職員間で話し合い実行している。	避難訓練を定期的に行う。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9		適宜確認し、変更があった場合も報告を受けている。契約時に緊急対応カードの記入をお願いし、職員全員に周知している。	新学期毎に書類の更新を行うと共に、状況の変化があった場合に申し出るよう保護者に周知する。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	保護者の情報をもとに対応している。アレルギー表を作成し、職員間で周知している。該当する子どもがいる場合には常に目に出来る所に分かりやすく表示することが大事。現在アレルギーのお子さんはいないが、食べこぼし等十分に気を配っている。	医師からの指示についての確認を行う。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9		振り返りの中で報告をし、報告書のチェックもしている。毎日ヒヤリハットを確認、記入し集計している。年度でまとめて職員で共有し多い事例には具体的な改善策を講じている。	今後も引き続き徹底した確認情報の共有を図る。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9		今年度はオンラインで研修の機会があった。年に1度法人として虐待研修を実施している。虐待の早期発見の観点から、子どもに変化等が見られた場合リーダーに報告している。	虐待防止委員会の報告等を行う。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9		説明の上、個別支援計画に記載している。姿勢保持の為に安全ベルトを使用することを保護者に確認をとり、支援計画に記載している。	身体拘束適正化委員会の開催と従業員への周知、指針の整備、研修等を行う。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

改善できた点

- 1 室内スペースには限りがあるが、敷地裏に新たに広場を借りることができ、活動スペースが広がった。
今後も整備をして有効に活用していきたい。
- 2 これまでも職員体制は十分に整えていたが、加えて在勤職員が資格を取得したことで更に有資格者の職員配置整備をすることができた。
- 9 リモートを活用することで、これまでよりも多くの研修に参加する機会を得ることができた。
内部研修では、当該事業に関わる意義について考えることのできるテーマを設定し、其々の職員が考察する機会を得ることができた。
複数の職員が児童発達支援管理責任者更新研修を受講することで、改めて当該事業内容の理解を深めることができた。
- 15 毎日の読み聞かせ担当者が其々の視点での絵本選びをし、子どもの興味を引き出している。
- 41 月1回のコロナ対策委員会を開催し、ガイドラインの見直しやPCR検査キットの配布、緊急ラインでの情報共有を行い、迅速に対応することができた。

次年度も今年度の課題や改善点を目標に反映させ事業運営を進めていきます